

京都臨床ニーズマッチング会

健康長寿社会の実現につながる京都発の新たな医療機器及びサービスの創出を目指し、京都の中小企業者を対象として、医療従事者による臨床ニーズの発表等を行う「京都臨床ニーズマッチング会」を開催します。

- 日時: **2018(平成30)年11月30日(金) 13:00~17:30**
- 場所: 京都リサーチパーク 1号館 サイエンスホール (京都市下京区中堂寺南町134番地)
【申し込み多数のため、会場を変更しました】
- 対象者: 京都府内に事業所を有する中小企業者(※)
- 定員: 40名
※対象者のほか、全国の製販企業(医療機器メーカー)、医療機器ディーラーもご参加いただけます。お申込みください。

参加
無料

主催 京都市、公益財団法人京都高度技術研究所
共催 公益財団法人京都産業21、一般社団法人京都府臨床工学技士会、
地方独立行政法人大阪産業技術研究所
協力 医療法人医仁会武田総合病院、三菱京都病院、株式会社カワニシホールディングス

※本会は、「京都市健康長寿産業創出プロジェクト」の一環として開催いたします。

● プログラム(予定)

時間	内容	講師氏名
13:00~13:05	開会	
13:05~14:10	医療機器開発と知財の深い関係	鷹津中小企業診断士・弁理士事務所 所長 鷹津 俊一 氏 (大阪産業技術研究所 医療健康機器開発研究会 知財戦略分野顧問)
14:10~16:20	臨床ニーズ発表	・医師及び臨床工学技士等による臨床ニーズ発表(13件) 発表者: 武田総合病院、三菱京都病院、彦根中央病院、京都府臨床工学技士会会員の医療従事者 <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;">※当日発表する臨床ニーズの詳細は、裏面に記載しております。また、以下のURLにて公開しています。 https://www.astem.or.jp/lifeinov/teireikai2/5047.html (下記QRコードからもご確認いただけます。)</div>
16:20~17:30	事務連絡・意見交換会	
17:30	閉会	

● お申込み

参加を希望する方は、京都市ライフイノベーション創出支援センターHPの申込フォームからお申し込みください。(https://www.astem.or.jp/lifeinov/teireikai2/5047.html)
⇒ 右記QRコードからもお申込みいただけます。
※ご参加の皆様には、「秘密保持に関する申し合わせ」をご提出いただきます。
※定員になり次第締め切らせていただきます。申込期限:平成30年11月20日(火)



● お問い合わせ

公益財団法人京都高度技術研究所(ASTEM)
京都市ライフイノベーション創出支援センター
TEL:075-950-0880/FAX:075-950-0881 E-mail:ikouyaku@astem.or.jp



京都臨床ニーズマッチング会 発表ニーズ一覧

No.	臨床機関名	診療科	開発するデバイスの種類	開発の背景（現状と課題点）
1	武田総合病院	脳神経外科	コンプライアンスの高いコルセットがほしい	脊椎圧迫骨折などに用いられている装具(コルセット)はこれまで非常に多くの種類のもので作製されている。現在の方法では、完成までに1週間程度の期間を要し、急性期の対応ができていない。また完成して装着しても実際の体とのギャップが生じ患者に苦痛を伴わせ、装着のコンプライアンスは低いのが現状である。急性期から着用でき、患者の体型によりフィットした装着の苦痛が少ない装具を作製したい。
2	武田総合病院	脳神経外科	ベッドからの転落を防止する為の危険予知通報デバイス	医療・介護現場においてベッドからの転落事故は、最大限の注意をはらっても、少なからず起こる問題であり、従来よりさまざまな対策がとられてきているが、解決には至っていない。ベッド上の患者をモニターし、危険が予知された時点で、看護師、介護者に知らせるシステムがほしい。誤作動が少なく、発生前に転落の危険を察知できることが望ましい。
3	武田総合病院	糖尿病センター総合診療科	認知症予防や入院生活のストレス発散ができるシステム	高齢入院患者の増加で退院後の入院前生活への復帰の重要性が増しているが、長期間の入院により身体機能ならびに認知機能が大きく低下し入院前生活復帰が困難となることが多い。せん妄は認知症発症の大きな危険因子であり、せん妄の予防には入院ストレスの軽減や日内リズムのコントロールが重要である。入院前生活への復帰率を高めるため、入院ストレスを軽減し日内リズムのコントロールを支援でき、寝たきりとなることを予防できる入院環境システムの構築を支援してほしい。
4	武田総合病院	糖尿病センター総合診療科	非侵襲的、簡便に利用できるアキレス腱肥厚測定装置	アキレス腱肥厚は家族性高コレステロール血症(500人に1人)の診断基準の一つとなっており、若年性冠動脈疾患のリスクを知るうえで重要な観察項目であり、体表観察により肥厚の有無について簡便にスクリーニングすることが可能であるが、臨床の現場や健診などではほとんど普及していない。そこで簡便にアキレス腱肥厚を測定することができる測定装置を開発し、健診や臨床の現場で利用できるようにしたい。
5	武田総合病院	糖尿病センター総合診療科	安価なエコーシミュレーター研修アプリがほしい	臨床現場でエコーのシミュレーショントレーニングを行いたい、シミュレーションモデルは非常に高価すぎて利用できない。健常画像や様々な病変のシミュレーションが可能なエコーシミュレーターがほしい。
6	武田総合病院	心臓リハビリテーション	在宅でも使用できる携帯型の塩分摂取量が測定ができる機器がほしい	高齢心不全患者が増加し、自己管理困難症例も増加している。塩分制限(減塩)を指導しているが、退院後の食事でどれだけ塩分を摂取しているのか、本人・医療者ともにわからない。塩分制限しているつもりだが実際は不十分なことも多く、再入院につながる。平均塩分摂取量が可視化できれば、自己管理の理解が深まり増悪予防につながることを期待できる。現在は、医療機関での長時間の尿検査でしか塩分摂取量を推定できない。
7	武田総合病院	心臓リハビリテーション	リードレス・送信機不要のモニター心電計がほしい	重症患者・循環器疾患患者は心電図モニタリングが必要となるが、心電図のリード線が治療・ケアを行う際に邪魔になる場合がある。リード線やルート類が多くなるとせん妄のリスクが高まる報告もあり、可能な限り患者の活動を制限するものを減らしたい。また、送信機の重量が負担(紐で首から掛けている)となり、苦痛につながっている。リード線・送信機が不要となれば患者の苦痛軽減、治療・ケアも円滑におこなうことができる。
8	三菱京都病院	臨床工学科	人工呼吸管理下の患者搬送が可能な加温加湿器	加温加湿器使用中の人工呼吸患者をCTや心カテ室へ搬送する際、加湿ドーム内の蒸留水があふれ蛇管から逆流し、患者および呼吸器へ水が流入する恐れがある。また、搬送にだけ人工鼻回路へ交換することは、作業労力が増すことに加えて、安全性、High-peepが必要な患者にとってリスクである。人工鼻での人工呼吸管理は気道出血のある患者には使用出来ず、また加温加湿能力に限られるため適応外の患者も少なくない。加湿ドーム短絡は回路戻し忘れの事故や感染のリスクが高まる。
9	三菱京都病院	臨床工学科	4点支持器緩衝具	整形外科における脊椎症例の手術においては、体位を保持するのに必要な体位固定器が存在している。脊椎症例は長時間の手術になる事も多く、術中の圧迫もあり常に皮膚トラブルのリスクを抱えている。当手術室の対策はフィルムドレッシングを貼付するなどしているが著明な効果が出ているとはいえない。術後もフィルムドレッシングを剥がす時も痛みを感じる方がおられる。このような方法以外で皮膚トラブルを未然に防ぐ事ができないものか。
10	三菱京都病院	臨床工学科	シャントカバー	透析患者が手術を受けるときに、透析患者の生命線であるシャント(ブラッドアクセス)を手術中の、様々な圧迫からしっかりと保護できる物が欲しい。現在は手術室スタッフが自作しているが、非常に手間がかかり(作成時間約30分)、保護機能が高くない。これで守れるかは不安である。
11	三菱京都病院	臨床工学科	検査・処置の際にベッド上の患者の身体を安楽な体位で固定できるもの	検査・処置の際にベッド上の患者の身体を任意の位置や角度に調整して、安楽な体位で固定できるものがほしい。例えば腹臥位で治療する際に除圧しつつ首が楽なポジショニングが取れるもの。また、食道・胃・大腸のESD症例でベッドに傾斜をつけたい(専用のベッドは販売されているが大変高価である)。なお、透視下で行う処置の場合、素材は放射線を透過するものを望む。
12	三菱京都病院	放射線技術科	胸部レントゲン撮影立位補助具	胸部レントゲンは立位の撮影が基本であるが、中には立位保持が困難な患者や転倒リスクが高い患者のために、放射線技師が撮影室内で患者を支えた状態で撮影することがある。また予想外に患者が転倒し骨折した事例もあり、医療安全面でも課題が残っている。既存の撮影補助具は体位保持が困難なだけでなく、検査スループットの低下も考えられ、誰もが使用しやすい物ではない。そこで容易に使用できかつ安全な補助具が望まれる。
13	彦根中央病院	産婦人科	子宮頸部拡大鏡	子宮がん検診偽陽性以上の患者に対し、コルポスコプといった子宮頸部拡大鏡を覗いて生検を行っている。コルポスコプは機器が大きく、婦人科診察の狭い空間においてフォーカスも合わせにくく使い勝手が悪い。